

令和3年度 住民向け研修会

障がい者も住みやすいまちづくり
～ “地域で共に暮らす”を実現するために～

双葉地区

当日の記録

令和3年12月17日（金）14時00分～15時35分

双葉公民館 1階 講堂

社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター

○開催目的

H31年度まで市全体を対象に障がいについての理解促進を目的に住民向け研修会を行ってきました。その中で参加者より、自治会などの身近なところで開催してほしいとの声を頂きました。今回、地域の身近なところで、障がいをお持ちの方がいらっしゃることで、障がいをお持ちのご本人・ご家族へ地域で取り組んでいる活動を知っていただくことを目的に、「障がいについて」学び、「地域で取り組みそうなこと」を考える機会を作りました。その第1弾として、今回は双葉地区にお邪魔しました。

○当日スケジュール

14:00 開会

(司会：基幹相談支援センター 高部祐司)
センター長挨拶
(基幹相談支援センター長 三澤宏)



14:05 講演

『地域で共に暮らすを実現するために』

講師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科
准教授 高木寛之氏

14:20 当事者の発表

- ① 本田さん『聞こえないことを知ってほしい』
- ② 功刀さん『私が生きていることを感謝して』

14:40 『話し合ってみましょう』

15:30 発表・講評

15:35 閉会

○内容

・講演 『“地域で共に暮らす”を実現するために』

講師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授 高木寛之氏

演題に沿って、①地域住民とは誰か？②「みんなちがって、みんないい」に潜む罠？③共有された地域の物語への3つの視点で分かりやすく、講演を進めていただきました。①では地域で支える方の関わり方など②では「ちがいを」「私、あなた」の「ちがいを」認められるか、「尊厳」できているかを問われました。③では当事者ご本人・ご家族と地域が何を共有してそれによって物語をどのように作っていくかを示していただきました。「地域の方が自身と重なるストーリーを共有」することが大切であると強調されていました。



高木先生の講演後より、高木先生には当事者発表、テーブルごとの話し合い、発表・講評までを進行・コーディネーターとして、ご協力をいただきました。

・当事者の発表



①本田さん 『聞こえないことを知ってほしい』

手話と資料をもとに発表していただきました。

生活のこと。買い物をする事が多いです。家事も手伝います。料理を作ったり、洗濯もします。手話サークルにも通っています。仕事のこと。現在は医療機関の事務補助で働いています。仕事内容は館内管理・点検です。仕事でも人間関係やコミュニケーションが不安なため、仕事を辞めたこともあります。私の趣味。映画鑑賞や旅行が好きです。

アクション・SF映画が好きです。旅行は東京ディズニーランドなどに行きます。サッカーの試合観戦も好きです。ヴァンフォーレ甲府が好きで、全国に応援に行きます。スキューバダイビングも好きです。困っていること。自宅に来訪者があった時に、対応に困ります（話しができないため）、災害の時に聞こえないこともあり助けてほしい。（情報が入ってこないから）、一人で買い物をする時、コミュニケーションが取れない（お店の人とのやり取りが難しい）。みなさんに伝えたいこと。手話を知ってほしい。＊手話サークルがあることも知ってほしい。＊筆談などの方法も知ってほしい。と聞こえなくても生活が送れていることや仕事をしていること、余暇を充実出来ていることを発表していただきながら、日常生活で困っていることも語っていただきました。



②功刀さん『私が生きていることを感謝して』

障がいについて。統合失調のため、他人の悪口が幻聴として聞こえたりします。ADHDのため臨機応変が苦手です私の生活。1ルームのアパートに一人で住んでいますテレビはありません。家賃が安くて、とても快適です。自分で料理も掃除、洗濯もします。私の仕事。1日4時間、医療機関の用務員として働いています。仕事の内容は、トイレ清掃やクロスの洗濯物を干すことです。病院

院内をキレイにすることが仕事です。私の趣味。音楽を聴くこと、カメラです。花、雲海、白鳥などを撮影しています。障害者作品展にも出展しました。（*当日、ご本人が撮影した写真を参加者の方に見せていただきました。）私が思うこと。周りに差別されているのではないかと不安になりながら仕事をしています。よい評価をしてくれる方もいるので、私を必要とされていると思い、頑張っています。生きていくだけでも大変ということを理解してあたたかく見守って頂きたいです。私から。私が生きていることを感謝して、「ありがとう」。

発表では、ご自身の障がいによる生活のしずらさ、また必要以上に自身に関わらないで欲しいと語りながらも、地域で出会ったら笑顔で挨拶を交わして欲しいとご本人より地域の方たちとのコミュニケーションの回り方についても語っていただきました。

お二人の発表後、高木先生より、本人支援を行っている基幹相談支援センター相談員小野に「ご本人にどのように関わっていますか？」の投げかけに答えました。小野より、本田さんについては外出時に必要であれば支援しており、功刀さんについては困ったこと、悩みが発信できるため、話しを受けた時は一緒に考えたり、調べたりする支援を行っているとのことでした。

高木先生より、本田さんは専門職が関わる（買い物支援）などで生活を支えているが、それはご本人にとってほんのひとつまみであり、専門の方を増やすのではなく、身近な方との関わりを増やしていけるとよい。地域で互いのことを言える関係が大切で、そこに「ちがい」があることを受け容れ、サポート出来ることが理想。功刀さんについて、自身の障がいによる生きづらさを知って欲しいという願いと同時に深く関わって欲しくないと自分の思いを伝えられること、それは人が嫌いだからというわけではないこと、自身が地域の方とどのような関わり方を求めているかなど伝えられる場にご本人が居ることが貴重である。

2人はすでに地域での暮らしを実現できているが、2人以外の障がいのお持ちの方はどうなのだろうかと参加者に投げかけでいただいたのち、各テーブルの話し合いに移りました。

話し合いでは2地区で分かれており、その地区で生活されているお2人にもテーブルに入ってもらい、実際に参加者と話し合いを行いました。

○「話し合ってみましょう」

テーブルごとにファシリテーターが話し合いの進行をしながら、①高木先生の講演、当事者の方の話しを聞いてみて思ったこと・感じたことなど、②ささえあいの活動として、または地域で共に暮らす住民として障がいをお持ちの方にどんなことができるか、2つの視点で話し合っていました。その後、各テーブルのファシリテーターより、発表してもらいました。

グループ①



本田さんの第一印象は聞こえない方ということを知らなければ、健常の方と同じ。意思表示という視点で、参加された方から自分たちも学生時代（中・高）に手話など学べる機会があると良かった。今後の取り組みについては、体制なども踏まえてどうしていくかまでは行きつかなかった。

グループ②



聞こえないことを知って、コミュニケーションを図っていきたいと感じた。住まいが近所であったら作った料理などおすそ分けできるなど、近所付き合いという意見も挙がった。手話以外でのツールとしてUDトークは活用できるのではないか。地域での取り組みについては幼少期から世代を超えた交流や支えていることを実感できる、それを地域の中でも実感できるとよい。

グループ④



研修会のこの場で2人の話しを聞いたことがきっかけ。一緒に悩みを取り組んでいきたい。出来ることとして、手話を学べる機会に足を運ぶ、健常の方、障がいをお持ちの方という括りをせず、互いに尊重し、「お互い様」の気持ちをもっていきたい。

グループ⑥



聞こえない方、自分も手話できないからどうせ話しも出来ないと思っていた。接し方が分からなかったこと、聞こえない方は見た目では分からないことを知ることができた。2人の発表を聞いて色々な趣味を持っている自分と同じ生活を送っているなど共通点も多くあった。地域で取り組めることとして、日頃の接点をもつため、挨拶などから始めて顔なじみになっていけるとよい。

会場の様子など





【講評】（高木先生）

専門職、地域の理解者（民生委員・ボランティアなど）の体制から専門職、理解ある友人・隣人・職場、地域の理解者（民生委員・ボランティアなど）の体制を作っていけるとよい。先生の講評の中で強調されていたのは、「理解ある友人・隣人・職場」の方をいかに増やしていくか、広めていくか。専門職はこの方たちを増やしていくこと、地域の理解者は1人でも多くの理解ある友人・隣人・職場の方に繋げていくのが大切。この方たちは当事者にとって「夢・人生」を担える方であり、当事者の「日常」である。



○情報提供

基幹相談支援センター

敷島保健福祉センターの社会福祉協議会の中にあり、障がい者とその家族の総合的窓口になっている。民生委員や地域の方からも相談を受け付けている。福祉サービス、就労、不安や医療関係の相談、就学や家族関係など、幅広く相談を受けている。ひきこもりの方の相談窓口にもなっている。

アンケート集計結果（参加人数 13 人）

アンケート回収数	12
アンケート回収率	92%

1、今回の研修会はいかがでしたか。

大変良かった	8	67%
良かった	4	33%
もの足りない	0	0%
非常に不満	0	0%
未回答	0	0%

1. 【研修会に参加して大変良かった・良かったなど】

- ・障がい者との関わり方を知ることができた。
- ・先生の講演から支え合い関係は相互の役割がある。だからこそお互いに“感謝”しなくてはならないと自分の中に落とし込みました。
- ・先生のお話しもとても勉強になり、同じところを探すというのが難しいが、とても大切なことだと、伺い、これから是非やっていきたと思います。
- ・当事者と面談できたこと。
- ・初めての研修で勉強になりました。
- ・障がい者に対し、どうすればよいか、誰が障がい者なのか分からず、対応に手をこまぬいていたが、これを機に肩を張らずに地域で手助けできることが必要。
- ・生きることの意義を考える、よい機会となった。当事者の話しが出来てよかった。
- ・「障がい」者の大変さが分かった。
- ・講演を聞いて理解出来た（色々と）
- ・耳の不自由な方、統合失調症の話しを聞くことが出来た。何が不自由で、何をして欲しいとかが分かった。
- ・当事者の生の声が聴けたから。講師の「日常」を豊かにすることが大変参考になった。

2. 【ささえあいの活動で障がいをお持ちの方にどのような関りができると思いましたか？】

- まずは見守りから始めたいと思います。
- 理解する、自分が理解したら、それを広めるということが何よりも大切だと思いました。地道なコミュニティづくり。
- 地域の方々とコミュニケーションとして、日頃のあいさつなどから始めていって、理解者となれるよう努めたいと思います。
- 地域のみんなど話し合うことだと思えます。
- 何かきっかけを掴みたい。
- コミュニケーションをもつ努力。
- 小さなことでも関われば、それを基に関係を築く。
- 何か戸惑った時に手伝いたい。
- コミュニケーションを出来る限りとって行く。
- 互いに支え合うことが必要である。町内の行事などに加わってもらう。こちらに必要な事は支援していく。
- 今まで高齢者対策が多かったですが、奥が深く、難しいと感じました。ただこれを機に関わり合いの方法を考えるのは良いと思います。

3. 今後も「障がい」についての研修会を行いたいと考えています。今後の開催において、ご意見などご自由にお書きください。

- 研修会の開催に参加したいと思います。
- 有意義な時間をありがとうございました。文面よりもリモートよりもやはり対面で話しを聞く、話しをすることに意義を感じました。
- 今日のような機会を作っていただき、ありがとうございました。とても良い時間でした。
- こういう会を多くもち、開催することは良いことだと思います。
- 参加させていただきます。
- 障がい者当人の話しを聞ける場が今後も欲しい。
- 定期的開催を希望。
- このような機会を沢山作って欲しい。
- 障がい者のお話しを聞いて理解したい。
- 公民館活動にも参加してもらいたい。
- 地域毎にやったのは良いと思います。今後もこのような形を希望します。

☆アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事務局より（障がい者基幹相談支援センター）

コロナ感染拡大により延期を経ての冬開催となり、ご参加頂いた方には感染防止にあわせ、防寒対策もお願いする形になりましたが、無事に開催することができました。双葉地区にお住いの2人の当事者の方の発表、その後テーブルごとの話し合いに参加していただき、当事者・参加者が近い視点で生活のことや地域のことを互いに機会になったのではないかと思います。地域で支え合い活動をされている方が参加してくださったこともあり、今後地域で「障がい」をどのように捉え、取り組んでいくか、関わり方などについても意見を出していただきました。日々の顔見知りをつきかけとし、地域の活動に参加してもらいたいなど当事者本人やご家族にとっても地域交流の1つになったのではないかと思います。今後も微力ながら、住みやすいまちづくりに協力していきたいと思っています。

今回開催した地区に限らず、地域で障がい者やその家族、ひきこもり等の困りごとがありましたら、基幹相談支援センターに繋げてくださいますようお願い致します。

報告書作成者

社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会
甲斐市障がい者基幹相談支援センター
高部 祐司・坂本 大輔
(写真撮影：岩水涼さん)